

<シンポジスト 4>

現場から求められている医療・福祉系大学の課題—臨床工学技士の立場から—  
「これからの臨床工学技士の役割」

一般社団法人新潟県臨床工学技士会 会長  
後藤 博之

【はじめに】

現在、臨床工学技士法が施行され26年が経過した。この間に臨床工学技士を取り巻く医療環境が大きく変化して業務の多様化が進んだ。そして同時に臨床工学技士の重要性は高まり、活躍の場が増加して臨床工学技士を取り巻く環境が今まさに激変している。そこで今回、臨床工学技士の業務及び専門教育制度の現状を紹介し、これからの臨床工学技士の役割を考える。

【臨床工学技士の業務】

臨床工学技士の業務は医師の指示に従って、呼吸（肺）、循環（心臓）、代謝（腎臓）機能の一部を代行する生命維持管理装置を操作、また病院内のすべての医療機器の保守点検や、他のメディカルスタッフに医療機器の正しい使用法を指導することが主な業務である。

図1に日本臨床工学技士会が担当業務についてのアンケート調査を行った結果を示す。

現在高齢化が進み、生活習慣病が原因となる腎不全の

患者が増えているため人工透析が業務の中心となっている。また科学医療を支える工学の専門家として人工呼吸器、ペースメーカー、人工心肺装置などの最先端機器を扱うため、チーム医療に不可欠の存在として位置づけられている。

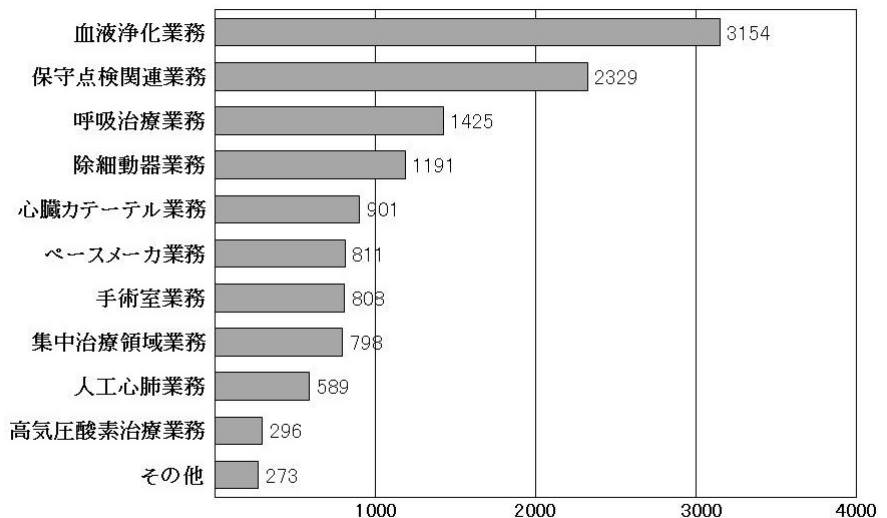
【臨床工学技士雇用の増加と背景】

臨床工学技士の雇用はここ数年で急激に増加している。その背景として2007年の改正医療法の中で、病院等は医療機器の安全使用のための「医療機器安全管理責任者」の配置が義務化されたということで医療法の中に臨床工学技士の名称が初めて登場した。そして2008年には臨床工学技士に医療機器安全管理料として初めて診療報酬が認められた。点数としては非常に低い点数だが臨床工学技士にとっては飛躍的な第1歩となった。そこで同年より全国的に臨床工学技士の雇用が急激に増加することになった。その後の診療報酬改定でも透析液水質確保加算、療機器安全管理料の充実など臨床工学技士に次々と診療報酬が認められ、現在に至っても臨床工学技士の需要に対する雇用は高まっている。

【臨床工学技士基本業務指針 2010】

数年の間に、医療機器安全管理責任者の設置義務、立ち会い規制及び臨床工学技士に係わる診療報酬の新設・増額や人工呼吸器装着患者に対する吸引と動脈留置カテーテルからの採血が認められた事などを含め、臨床工学技士の業務内容が大きく広がり細分化された。そこで昭和63年に当時の厚生省健康政策局から発出された「臨

臨床工学技士の担当業務



2012年 日本臨床工学技士会調査

( 回答数 :3,738 ) 複数回答可

図1

床工学技士業務指針」が医療技術の高度化に対応しながら適切な業務確保されるべきであるとして、心・血管カテーテル業務、ペースメーカー業務、埋込み型除細動器業務などを追加して平成22年10月「臨床工学技士基本業務指針 2010」として完成した。この指針は医療機器の高度化、技術の進歩など、医療の変容に柔軟に対応している。

**【臨床工学技士各種認定資格制度】**

臨床工学技士の誕生課程には、まず従来の医療関係職種では十分な対応が困難な業務領域である事と機器装置による治療が一般化した背景の中でその業務には高い専門性が必要であることから法制化された。以前より国家資格を取得した臨床工学技士に対し、関連学会が独自に行っている学会認定資格制度がある。この認定制度は当該分野でのチーム医療の一員として各分野の学会が認定する制度であり、各領域の発展普及に寄与している。これは臨床工学技士がより高度で専門性の高い業務に従事できるための能力の向上と、よりよい医療サービスを目指している。

図2に臨床工学技士専門制度の概念図を示す。

まず臨床工学技士の国家資格を取得後、ある程度の職場での経験を積むと各学会が認定した分野別認定士の資格が取得できる。そして分野別認定士取得後5年以上の臨床経験を積み、分野別専門臨床工学技士研修を経て試験を受けて合格すれば分野別専門臨床工学技士の資格が取得できる。

**【まとめ】**

近年医療機器の進歩は目覚ましいものがあり複雑化して増え続ける事が予想され、臨床工学技士の担う役割は今後ますます拡大すると思われる。これからの臨床工学技士は医療機器を扱うスペシャリストとして常に時代のニーズに対応できることが重要となる。業務が細分化され専門分野での高い知識・技術が要求されると同時にただ知識と技術だけ習得して満足するのではなく、医療現場で患者と向き合う職種として常に患者のQOLを高めるべく努力する姿勢が必要である。また臨床工学技士の社会的認知度はまだ低く、社会的地位の確立のためにも最先端医療を担う研究者としての臨床工学技士の輩出が重要であると考えられる。

臨床工学技士専門制度の概念図

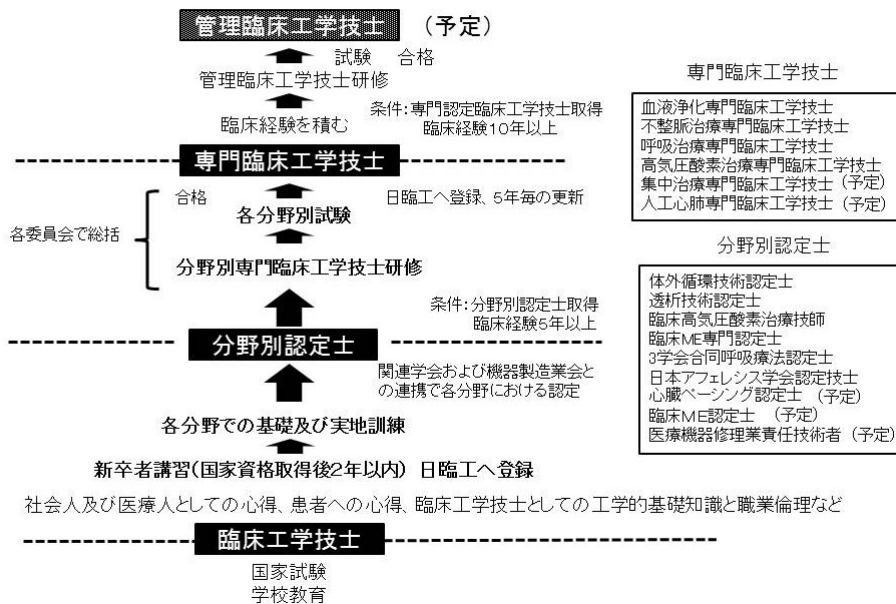


図2